

学校だより 北 陵

川西市立北陵小学校
校長 斎木久雄

盛夏の候、保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。皆様方のお陰を持ちまして、本日、平成28年度1学期の終業式を無事に終えることができました。

私は、4月にこの北陵小学校に赴任しましたが、この1学期間の子ども達の様子を見ていて、北陵小学校は、本当に素晴らしい学校だと実感し、誇りに思っています。

いよいよ明日から42日間の長い夏休みがスタートしますが、子ども達にとって有意義な夏休みになることを願っています。

以下に、7月5日の全校朝会と本日の終業式での校長講話の概略を紹介します。

<7月5日の全校朝会>

今日は、皆さんに感謝の気持ちを伝える「ありがとう」についてお話をします。

「大きい」の反対語は「小さい」、「長い」の反対語は「短い」ですが、それでは、「ありがとう」の反対語は何でしょうか？ 答えは「当たり前」なんです。

「ありがとう」の語源は「有り難い」。つまり、「有る」という事が「難しい」ということなんです。「ある」ということがなかなか無いことなのに「ある」。

それは本当に幸せなことだから、ああ「有り難い」・「ありがとう」となります。

だから「あるのが当然、」と思っていることは、「有り難い」の正反対。「ありがとう」の反対は「当たり前」ということです。

普段の生活の中での電気や水道もそうです。スイッチを入れると電気が付き、水道の蛇口を回すと水が出るのが当たり前になっているので、普段の生活の中では、電気や水道水を使う時に感謝の気持ちを持っていないと思います。しかし、大きな災害が発生して電気や水道が使えなくなると、私達はその有り難さにきづき、感謝の気持ちが湧いてくると思います。

もっと身近な例えでは、家族がそうです。自然学校を経験した5年生は、家族や友達のありがたさに気付いたと思いますが、親が食事を作ってくれるのは「当たり前」と思っている人は、「ありがとう」という気持ちがないし、自分が困っている時に誰かが助けてくれるのが「当たり前」と思っていたら「ありがとう」とは言えません。

しかし、そのどちらも「当たり前」ではありません。もう一度「有り難いことだ」という目で見直してみてください。「有り難い」はずなのに「ある」ということに気づけば、自然に感謝の気持ちが湧いてくる事が多いはずです。

<7月20日の終業式>

今日は、お家の人に対する感謝の気持ちを確認するために、「おかあさんの請求書」という話を紹介します。進という少年が、学校へ出かけるとき、前夜書きつけた紙を二つに折って、お母さんの机の上にそっと置いて、学校に出かけて行きました。紙には、次のように書いてありました。※東井義雄「いのちの教え」（佼成出版社）から引用しましたが、内容・金額等を一部修正しました。

<請求書>

1、お店にお買い物に行きちん	50円
2、お母さんの肩たたきちん	50円
3、お庭のはきちん	50円
4、妹を教会に連れて行きちん	50円
5、お留守番ちん	50円
ごうけい	250円
お母さんへ	進より

進のお母さんは、これをごらんになってニッコリなさいました。そして、その日の夕食の時には、今朝の請求書と250円が、ちゃんと机の上ののっていました。進は大喜びで、お金を貯金箱に入れました。

その翌日です。進がご飯を食べようとすると、テーブルの上に一枚の紙があります。開いてみると、それはお母さんの請求書でした。

<お母さんの請求書>

1、高い熱が出てハシカにかかった時の看病代	ただ
2、毎日の炊事・洗たく・掃除代	みんなただ
3、毎日のおやつ代	ただ
4、寒い日に着るセーター代	ただ
5、進さんが生まれてから、今日までのお世話代	みんなただ
ごうけい	ただ
進さんへ	お母さんより

進は、これを見たとき、胸がいっぱいになって涙がこぼれそうになりました。そして、これからは、どんなにお手伝いをして、お金はいらないと思いました。大好きなお母さんのためには、自分のできることなら、何でもしてあげようと思ったからです。

どうですか皆さん。旅行をしてホテルに泊まると、夕食や朝食の代金を含めた宿泊代金を支払わなければなりません。皆さんは、昨日、晩御飯を食べて、お風呂に入って、洗濯されたきれいな下着に着替えて寝ましたね。そして、朝起きて、顔を洗って朝ごはんを食べて、洗濯されたきれいな服に着替えて学校に来たと思いますが、当然、皆さんはお金を支払っていませんね。

皆さんがこうして学校に来られるのは、お父さんやお母さん、お家の方が、みなさんのために働いてくださっているお陰です。今までは、当たり前と思っていたと思いますが、これからは、お父さん・お母さん・お家の方に対して、「ありがとう」の感謝の気持ちを持って欲しいと思います。

<保護者の皆様へお願い>

夏休みの期間は、基本的には学校教育から離れて、家族の一員として、家族の絆を深めることを最大の目標にしています。そして、家族からの温かい励ましや支援が、子どもの豊かな心を育みます。学校と家庭がしっかりと連携・協力して、子ども達の「感謝の心」を育成していきたいと願っておりますので、どうか宜しくお願い致します。

また、夏休みには、納涼祭等の地域の行事があります。ぜひご家族揃って参加して、地域との絆も深めて頂きますようお願い致します。